

環境に優しい循環型社会へ

工期中の無事完成祈願



鋤取りの儀を行う宮首昭彦三菱重工業(株)横浜製作所長(上)と杭打ちの儀を行う松本國夫(株)大林組常務取締役九州支店長ら。鹿児島市大迫町の現場で

業者、地権者など多数が出席して、安全施工と工期中の無事完成を祈願した。

鹿児島市新北部清掃工場新築安全祈願祭は30日、鹿児島市大迫町の同現場で行われ、発注者や施工

鹿児島市新北部清掃工場

粗大ごみ処理棟新築

年内にも分離発注か

同工場の建設場所は、2階地上7階建延べ2万7412・76平方メートル。鹿児島市大迫町1万1877外。ごみ焼却棟の建物規模は、SRC気調和設備、同電気設備、一部SRC造地下備、同給排水衛生設備が17年11月、新築、計量棟新築、18年度に場内整備(舗装、植栽等)を発注する予定。このうち、16年度に計画している粗大ごみ処理棟新築の発注時期については、現時点では早ければ年内にも発注したいとしており、発注形態は分離発注を視野に入れている。



新北部清掃工場の全体配置図。同機械設備が19年3月となる。設計監理は大建設に計画している粗大ごみ処理棟新築の発注時期については、現時点では早ければ年内にも発注したいとしており、発注形態は分離発注を視野に入れている。



ちの儀を行った後、それぞれ玉串を捧げて工期中の無事故を祈願した。

安全祈願祭では、祝詞奏上などに続き、刈り初めの儀を大建設・下舞建築設計事務所JV代表の隅谷康彦(株)大建設社

なお総事業費は、同工場ごみ焼却棟の機械設備、新築などの工事請負費合計176億450万円を含む約222億円。

宮之城土木

来月から川内土木と合併

50年の歴史に幕閉じる

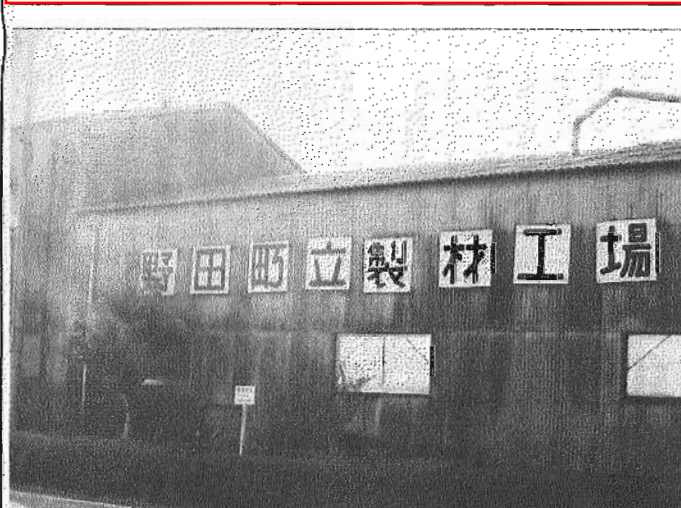
県行政改革の一環で、宮之城土木事務所は川内土木事務所と合併。昭和29年開設以来50年の歴史に幕を閉じる。4月1日



川内合庁前で握手を交わす森永川内所長(左)と梶尾宮之城所長

から川内合同庁舎で新たな歴史を刻む。第26代、最後の宮之城土木事務所

長となった梶尾信弘所長は30日、川内土木事務所最後の宮之城土木事務所の森永明所長を訪ね、川内合庁前で握手を交わした。



町財政を支え続けた製材工場

マザーズロックII現場見学会

大幅コスト削減を実現

マザーズロック研

当日は同製品を開発した末松吉生東栄商興(株)社長が現場で参加者らに同製品の利便性を説明。参加者らは熱心に説明を聴いたり、施工現場を写真に納めていた。

と挨拶。続いて、施工業者代表の宮首昭彦と松本九州支店長が「今日までの経験と実績をもとに、最新の技術で安全・安心な施設を完成させたい」「周りの環境等にも十分配慮しながら、安全第一に各社一丸となり、無事故無災害で早期の完成を目指します」と謝辞を述べた。



現場を視察する参加者＝吉田町の施工現場で

同製品は、客土、栗石流出などの問題を解消し、大幅なコスト削減と安全な施工による工期の短縮を実現。環境機能は、水中や水際部は鋼材材に栗石を使用し魚巢の機能を有し、水際以上についてはプランターポット程度の客土部分を設けること

全国1カ所の公営工場

野田町立製材工場が閉鎖

00万円に上った。最盛期の昭和55年には約8700万円を売り上げるなど常に町財政を支えてきた。

しかし、平成の時代に入ると木材需要が低迷。2年度頃から経営が厳しくなり、6年度以降赤字決算になった。徹底した経営合理化を進める一方、小学校屋内運動場や町営住宅の建設など、木材を活用した公共事業も取り入れたが、改善の兆しはみられなく、今回の閉鎖となった。

町は閉鎖を前に24日から26日の3日間、町民に工場内に残った製材などを売却処分することを決め、24日、前日の町内放送やチラシで知った町民らが閉鎖を惜しみながら買い求めていた。

最後の工場長になった井町直政助役は「一般会計の非常にいい財源だったのですが、残念です」と無念そう。16年度当初予算で同工場の解体を計画したが、財源不足で組むことができなかった。

新年度補正で改めて組むことになる。工場跡地約4300平方メートルの今後の利用方法については未定で、議会などと協議している。

お手軽で便利な購読料のお支払いは

自動振替で

鹿児島建設新聞
099-227-5100へ